

【主な出来事】

- 11月1日に行われる大統領選挙に向けた選挙戦が本格化。世論調査では現職のドン大統領がややリード。
- 新型コロナウイルスの政治家への感染が拡大、グレチャヌ議会議長を含む10人以上が感染。

1. 内政

大統領選挙

▼世論調査結果(その1)

・20日、市民団体 Watchdog が実施した大統領選挙に関する世論調査結果が公表された。

(大統領選挙で誰に投票するか)

ドン大統領 17%

サンドゥPAS党首 13.3%

ウサトゥイ我らの党党首 6%

イワノフ・ショール党議員 1.6%

ツク国家統一党党首 1.5%

キルトアカ統一ブロック代表 1.1%

ナスターセDA党首 1.1%

デリウ前自由民主党党首 0.1%

決めていない 33.7%

答えたくない 18.6%

投票しない 6%

(投票態度を決めている人に限定した場合の支持率)

ドン大統領 40.7%

サンドゥPAS党首 31.9%

ウサトゥイ我らの党党首 14.5%

イワノフ・ショール党議員 3.8%

ツク国家統一党党首 3.5%

キルトアカ統一ブロック代表 2.7%

ナスターセDA党首 2.7%

デリウ前自由民主党党首 0.2%

▼世論調査結果(その2)

・23日、公共政策研究所が行った世論調査結果が発表された。

(次の大統領選挙で誰に投票するか)

ドン候補 23.2%

サンドゥ候補 19.7%

ウサトゥイ候補 10.9%

イワノフ候補 4.8%

未定 27.6%

(決選投票で誰に投票するか)

ドン候補 32.2%

サンドゥ候補 31.4%

▼世論調査結果(その3)

・26日、民間調査機関の iData が行った世論調査結果が発表された。

(大統領選挙で誰に投票するか)

ドン候補 25.8%

サンドゥ候補 21.2%

ウサトゥイ候補 9.8%

イワノフ候補 7.9%

ナスターセ候補 2.9%

▼プーチン露大統領、ドン候補への支持を表明

・22日、プーチン露大統領が、来るモルドバ大統領選挙においてモルドバ国民はドン大統領によるロシアとの関係修復努力を評価すべきである旨、また欧州ではモルドバのプロダクツは必要とされており多岐の分野がロシアと連結している旨述べたと報じられた。

▼選挙キャンペーンの終了

・30日、選挙キャンペーンが終了した。

新型コロナウイルスを巡る状況

▼政治家への感染拡大

・19日、グレチャヌ議会議長への感染が発表された。この他、バトルンチャ議会副議長(社会党)フルクリツァ議会社会党会派会長(社会党)、ボイク内務相(2回目)、ドゥンブラベアヌ保健相らの感染も確認されている。

・29日、カンドゥ・プロモルドバ党党首が新型コロナウイルスに感染したことが明らかとなった。また、前日には同党から離党表明したレペスチュク議員の感染も明らかとなっていた。

▼10月末の国内感染者は76040人

・10月末時点の新型コロナウイルス国内感染者数は計76040名、死者は1785名となった。

その他

▼プロモルドバ党から5議員が離党

・23日、プロモルドバ党のスルブ議員、レペスチュク議員、グラバン議員及びグラウル議員が離党を表明。4名の議員は当面は無所属議員として活動するとした。

・30日、プロモルドバ党のパドネビッチ議員が離党を表明。同党からの離党者は5名となった。

▼ウクライナ大使館への爆破予告

・30日、当地ウクライナ大使館及びキシニョフ市庁舎に対して爆破物を仕掛けたとの通報があった。警察による捜索の結果、疑わしい物体や爆発物は発見されなかった。

2. 外政

▼ブルガリアとの政務協議実施

・20日、モルドバ外務・欧州統合省とブルガリア外務省との間で政務協議が行われ、モルドバ側からはソコラン同省次官、ブルガリア側からはドイコフ外務副大臣が出席した。両者はハイレベルの政治対話の重要性を強調しつつ、経済関係強化の必要性を指摘した。

▼ウガンダと外交関係を樹立

・23日、外務・欧州統合省は、ウガンダとの外交関係樹立に関する文書に署名した旨を発表した。

▼ツレア外務・欧州統合相、退任の見通し

・28日、議会の外交委員会がツレア外務・欧州統合相の次期在ハンガリー大使転出を承認したことが明らかとなった。ツレア外相は、手続きが整えば現在の職を離れることになることを説明した。

3. 経済

▼8月の工業生産、対前年同月比で7.7%減

・19日、国家統計局は、2020年8月の工業生産が、前年同月比7.7%減となった旨を発表した。

▼シンクタンク「専門家グループ」、カントリー・レポート2020を発表

・20日、シンクタンク「専門家グループ」はカントリー・レポート2020を発表した。同レポートは、農業33.8%減、輸送サービス16.7%減で、モルドバのGDPは7.5%減少と予測した。また、輸出は20%減、輸入16.3%減、固定資産投資は8.3%減、平均貸金8.2%減とした。

▼ガス料金、12.2%の引下げ

・28日、国家エネルギー規制庁は、家庭用ガス料金を12.2%引き下げる旨を発表した。千 m^3 当たり4,298レイ(252.3ドル)となる。

▼1～9月の農業生産

・27日、国家統計局は今年1～9月の農業総生産高は210億レイ(12.33億ドル)であり、前年同期比の74.7%相当となる旨を発表した。内訳は、野菜類35.5%減、家畜2.8%減など。また、穀物及び豆類(トウモロコシを除く)の生産量は合計70万トンで、前年同期比50.7%減。

▼政府、干ばつ被災農民に23百万レイを追加補償

・28日、政府は干ばつや悪天候の影響を受けた農民に対する補償として、23百万レイ(1.35百万ドル)を追加的に割り当てる旨決定した。

▼9月末の政府債務

・30日、今年9月末の政府債務は622億レイ(36.52億

ドル)に達した旨発表された。これは、対GDP30.3%を占め、前年末比17.8%増。

・国内債務が282億レイ(16.55億ドル)、対外債務は341億レイ(20.02億ドル)。

▼外貨準備、過去最高の35.29億ドル

・10月末時点の外貨準備は35.29億ドルであり、昨年末より4.69億ドル増で、過去最高水準となった。

▼経済特区の活動状況

・30日、経済・インフラ省は、第1四半期の経済特区(FEZ)の活動状況を報告した。

・国内7つのFEZで、16,463人の雇用があり、投資額は新規に38.5百万ドル増、総額453百万ドルとなった。

・総生産量は49億レイ(2.87億ドル)に達し、総売上高は46億レイ(2.70億ドル、対前年同期比19.7%減)、輸出額はモルドバ総輸出の21.1%を占める(前年同期比22.9%減)。

▼ジュルジュレシティ港の活動状況

・30日、経済・インフラ省は、第1四半期のジュルジュレシティ国際港の活動状況を報告した。181隻の取扱(前年同期比30%減)、卸商品取り扱い34億レイ(1.99億ドル、前年同期比17.3%増)、同港の収入は84百万レイ(4.93百万ドル)。

経済協力

▼キシナウ市、モスクワ市から除雪用トラック5台供与

・16日、キシナウ市はモスクワ市から除雪用トラック5台の供与を受けた。チェバン市長は、総額が1.5百万レイ(0.8百万ドル)になる旨述べた。

▼世銀、保健分野に3.5百万ドルの追加無償支援

・26日、ドゥンブラベアヌ保健・労働・社会保障相は、IDAが実施するプロジェクト「COVID-19への即時対応」(今年5月、52.9百万ユーロの融資)について、世銀関係者と協議した結果、追加的に3.5百万ドルの無償援助が、国立公衆衛生庁の検査能力の向上、機器の購入等に利用されることになった旨を発表した。

▼ロシア、干ばつ被災農民に対して300万ユーロ無償資金協力

・28日、政府は、干ばつで被災した農民に対するロシアからの300万ユーロの無償資金協力取決めに署名することを承認した。

(了)